

外国語

第2学年

育成を目指す資質・能力

【思考力】【表現力】【人間関係形成能力】

単元名

素敵な塩中，動画で紹介

【単元の概要】

生徒は，学校間の交流のあるインド，ハイデラバードのナサール校からのメッセージ動画を視聴し，自分たちの学校の魅力を分かりやすく伝えるという課題を設定します。課題解決に向け，紹介文の例から比較の表現を活用したり，地域人材の助言を参考にしたりすることで，相手に配慮しながら，言語面・内容面を改善し，紹介ビデオを作成します。

学習指導要領における領域・内容

「話すこと (ア)(オ)」

「書くこと (オ)」

他教科等との関連

社会，技術・家庭

◆単元の目標

- 比較級，最上級，as～as…の意味，形，用法を理解する。
- 新出文構造を含む英文を使って積極的に話したり，自分の意見を伝えたりしようとする。
- 既習事項を用いて，自分の学校を紹介する英文を書き，その内容が聞き手に伝わるスピーチができる。

◆単元の展開（全 13 時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
課題の設定（1）		
ナサール校からの動画を視聴し，「塩町中学校や三次のことをもっと教えてほしい」という相手の思いを知る。	○塩中に興味をもってきている。 ○自分たちの学校を知ってもらおうチャンスだ。 ○今まで習った英語で何が使えるかな。	<p>■これまで生徒が経験した英語でのスピーチは校内での発表にとどまっており，さらに多くの人に発信したいという気持ちを高める働きかけを行う。</p> <p>■ナサール校から送られたメッセージ動画を再生し，先生が話されている内容を聞き取らせる。</p> <p>■きれいな校舎や部活動など，自分たちが紹介したいものから，相手を知りたいものへと視点を広げ，情報収集の必要性に気付かせる。</p> <p>■社会の担当教員と連携し，インドの経済力や公用語等について想起させる。</p> <p>■ナサール校について調べるとともに，社会での既習事項を想起させながら，インドの文化背景をより深く理解させる。</p> <p>【社会】世界の諸地域（アジア州）の学習内容から，かつてインドはイギリスの植民地であり，文化も影響を受けていること，日本のアニメも人気で，インド版「巨人の星」の主人公はクリケットをしていることを想起させる。</p> <p>■既習表現を使って紹介文を作らせることで，表現したいことと英語力の差を感じさせ，学習の必然性をもたせる。</p>
塩中の何を紹介するか，意見を出し合う。	○塩中のいいところってどんなところだろう。 ○広くてきれいな校舎は自慢。 ○部活や行事がたくさんある。 ○勉強する教科，学校生活のスケジュール等を紹介する方がいいよ。	
自分たちの学校の魅力を英語で分かりやすく伝えるという課題を設定する。	○インドにはない塩中の特色は何だろう。 ○ナサール校の人たちは，日本の学校のどんなところを知りたいのかな。 ○自分たちがインドについて知る必要がある。	
情報の収集（5）		
ナサール校について調べ，塩中との相違点に着目する。	○ナサール校の生徒は英語が上手だね。社会科で，インドは昔イギリスの植民地で，英語を使う人もいると習ったね。 ○インドは BRICS の一つで経済発展していると習ったけど，確かに校舎が大きくきれい！ ○部活動もたくさんあるけど，日本で盛んな野球部やソフトテニス部がない。なぜだろう？ ○インドの人がよく知っているクリケットや硬式テニスと比較しながら説明する方が分かりやすいね。	
既習表現を使って紹介文を作り，表現したい文構造に気付くことで，学習に見通しをもつ。	○まずは自分たちの力で紹介文を作ってみよう。 Baseball is popular in Japan. This is our baseball team. They practice very hard every day. This is our bat. He is the pitcher. His ball is very fast. ○「野球は日本で一番人気があるスポーツ」など，比較する表現を使った方が伝わりやすい。	
比較表現（比較級，最上級，as～as…など）が必要であることを感じる。		

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
教科書の紹介文を参考に、比較の表現や、効果的な説明の仕方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○比較表現を使うことで英文も簡潔で、より分かりやすくなるね。 ○教科書にあるソフトテニスの説明はそのまま使えるね。クリケットもこれを参考に説明できそうだ。 ○合唱コンクールの説明文をアレンジして、行事の説明ができるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ■比較級、最上級、as～as…の意味・形・用法に着目しながら読ませるとともに、それらの表現を活用する活動を設定し、繰り返し活用することで表現を習得させる。
整理、表現（１）		
一人一人の生徒が、学校紹介の英文を比較級、最上級、as～as…を使いながら書いていく。	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した比較表現を使って、相手に伝わりやすい文章を心がけよう。 Baseball is the most popular sport in Japan. This is our baseball team. They practice very hard every day. This is our bat. It's longer than a cricket bat. ○日本の学校とインドの学校で大きく違う所を紹介すると興味をもってもらえそうだ。 ○インドでも日本の部活動と同じように、練習や試合があるのかな。 ○インドの事をもっと知らないと、比較した文が作れないな。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> インドやナサール校について詳しい方のお話を聞く必要性を感じる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■既習表現だけでなく、新しく学習した比較表現を効果的に使うよう働きかけよう。 ■一人で紹介文を書くことが難しい生徒には、グループでの協働を促したり、個別支援を行ったりする。 ■ALTの英文チェックを受ける。 ■自分たちの考えに偏見や思い込みがないか、お互いの英文を吟味させる。
情報の収集、整理、まとめ（１）		
インターネット電話を使って国際交流協会の方にお話を聞き、インドについて取材する。	<ul style="list-style-type: none"> ○インドで一番人気があるスポーツはクリケットなのか。野球との違いが説明できるかな。 ○インドも屋内で靴は脱がないんだ。意外。 ○学校の掃除は清掃員の人があるんだ。日本では、使った場所は自分たちで掃除するけど、これは胸を張って紹介できるね。 ○生徒だけで自転車で登下校することはないんだ。日本は安全な国なんだな。 ○宗教によって豚肉や牛肉を食べられなかったりするんだ。僕たちの弁当を見せるとどう思うかな。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> インドとの違いを知った上で、日本のよさも改めて感じ、さらに伝えたいことが増えてくる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■国際交流協会の方に生徒が紹介しようとしている内容をお知らせすると同時に、生徒の質問事項をあらかじめメールで送っておく。また、生徒がもつ思い込みや偏見に対して、文化や生活様式の違いにも視野を広げられるよう連携しておく。 ■文化背景の違いを善悪の判断基準と混同しないよう配慮する。
文化背景の違いを理解しつつ、日本や塩中の魅力をしっかり伝えていこうという課題を新たに設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ○日本とインドを比較する時にも、ナサール校の人たちの文化にも気を付けながら伝える内容を選んでいこう。 ○相手の立場に立ってスピーチを聞くと、もう少し詳しく説明した方がいい部分があるね。 ○クリケットとの違いが分かるように、野球部に実際のゲームを撮らせてもらい、映像と一緒に紹介しよう。 ○どの順番で紹介すれば、分かりやすいかな。 ○同じ言葉は繰り返さずitやthatなどの代名詞を使うと、内容にまとまりが出るね。 ○最初の人は「これから～を紹介します。」といった導入、最後はグループのみんなで挨拶して終わろうよ。 ○言いたかったけど言えなかった表現や語句を自分で調べてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ■紹介する内容や表現を吟味させたり、英文を書き直し、より良い順番を考えたり、自然な流れにするために英文を付け加えたりという活動によって、生徒の思考力を働かせる。 ■紹介文の言語面、内容面の両方に着目させ、相手に配慮した紹介になるよう工夫させる。 ■ALTに発音をチェックしてもらおう。 ■良いスピーチのポイントとして、英語の発音とイントネーション、笑顔、ジェスチャー、アイコンタクト等を意識して話すよう指導する。
表現（２）		
グループでやり取りしたことを基に、紹介文の原稿を作成する。作成した原稿をグループで読み合ったり、他のグループと交流したりして、意見交換を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○インドの人と日本人では英語の発音に違いがある。早口で言うと分かりにくいよ。 ○どんな道具や写真を用意すれば分かりやすく説明できるか考えよう。 ○ビデオを見ている人に伝わりやすいように、カメラに視線を合わせて話すようにしよう。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【技術・家庭】情報に関する技術のうち、動画の特徴と利用方法を確認する。 </div>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>紹介ビデオを撮影し、撮った映像を班で確認する。自分や仲間の説明について気付きを指摘し合い、改善に生かす。</p>	<p>○声が聞き取りにくいよ。もっとはっきり言わないと聞こえないね。 ○笑顔で話すと印象がいいね。 ○原稿を見て話すと内容が伝わりにくいね。しっかり表現を使えるように練習しよう。</p>	<p>■自分たちの発表を客観的に見る場を設定し、より良い表現にするための気付きを大切にす。</p>
<p>他のグループの良い例を参考にして、自分たちの発表をどう改善するか話し合う。</p>	<p>○実際に部活をしているところを撮影しているから、イメージがしやすいね。 ○Do you know～?と相手に質問を投げかけているのが、相手を惹き付ける良い工夫だ。 Do you know baseball? It's the most popular sport in Japan. This is our baseball team. They practice it very hard every day. After their practice, they clean the playground by themselves. Look at this. This is our bat. It's longer than a cricket bat. The ball is as big as the cricket ball, but it's softer than the cricket ball. Let's watch their play.</p>	<p>■他のクラスや他の班の動画の中で手本となるものを選んで見せる。良いところに気付くことで自分たちの動画の参考にさせる。</p>
表現、実行（２）		
<p>最終版の撮影をし、映像を確認する。</p>	<p>○最初の練習動画に比べると話し方がはっきりして聞き取りやすいな。 ○やはり比較の表現の方が、伝わりやすい。 ○紹介する内容を工夫するうちに、インドのことについてもさらに詳しくなっているね。</p>	<p>■最初に撮影したビデオと見比べるなどし、自分たちの表現の高まりや深まりを実感できるようにする。</p>
<p>完成したビデオを国際交流協会の方にお渡しし、ナサール校へ届けてもらう。</p>	<p>○ナサール校のみんなにも伝わるといいな。 ○喜んでもらえてうれしい。 ○もっと発音練習をして、テレビ電話で直接英語を使ってやり取りしたい。 ○ナサール校の生徒のように環境問題など、難しい内容でも話し合えるようになりたい。</p>	<p>■国際交流協会の方にDVDを送り、言語面と内容面の両方からコメントを頂けるようお願いしておく。</p>
振り返り（１）		
<p>評価指標（ルーブリック）の基準に従って自己評価する。</p>	<p>○今まで学習していた表現だけでなく、新しく習った比較表現も使って、分かりやすく話すことができた。 ○相手の文化を知ることによって、より相手意識のある内容に深めることができた。 ○ビデオは一方的な話し方になりやすいけど、目線を意識したり、問いかけを入れたりすることで、表現力が高まった。</p>	<p>■あらかじめ示した評価指標（ルーブリック）を基に自己評価させる。</p>
<p>この単元を通して身に付けた資質・能力について、「塩中カード」に振り返りをまとめる。</p>	<p>○初めて、インドについて知ることができた。カレーが人気、でも発展途上の国というイメージしかなかったが、日本より進んでいるところもあることが分かって驚いた。 ○これまで海外というと欧米の事ばかりしか興味もてなかったけど、アジアの国についてもっと知りたいと思った。 ○インドのことを知ることによって、日本のよさも改めて感じた。 ○世界に通用する人になるためには英語をもっと頑張らないといけない。少なくともインドの学生には大きく差を付けられている。</p>	<p>■ねらいとしていた資質・能力である「思考力」、「表現力」、「人間関係形成能力」を視点に、自らの学びを振り返らせ、自己評価させる。ただし、自分が最も伸ばしたと思う力については、塩中9能力から自由に選ばせる。 ■良かったところだけでなく、自らの課題を見つけた生徒には、次の目標につながる大切な視点だとして肯定的に評価する。</p>

【児童生徒の変容】

インターネットで動画をよく見る生徒たちなので、学校紹介の動画を撮るという活動には前向きな反応を示した。しかし、生徒たちにインドと日本の違いを意識して作品を作るようアドバイスしたところ、自分たちがインドについてあまり知らないことに気付いた。そこで国際交流協会の方に協力をお願いし、インドのことについてお話を聞いたことで、文化的な違いにも配慮しながら、伝える内容を深め始めた。その後、より相手に伝わりやすい表現にするため、新出文法である比較の表現を使ったり、接続詞や代名詞を使ってまとまりのある文にしたりするなど、言語面の工夫も見られ、本校で育成を目指す資質・能力である「思考力」、「表現力」の高まりが見られた。英語以外の時間も使って様々な人に協力を求めながら仲間と力を合わせて撮影する姿からは、「人間関係形成能力」の高まりも感じられた。他文化を理解しつつ日本のよさを改めて自覚できる価値のある単元となった。